

市村の舞臺 (上)

女復の二と

柿山正雄

舞臺女の芝居を今日の裏境に隔れたのは何
 とも固十郎ゆきの活歴である。活歴の一番
 要のことは歌舞伎藝術のやうく、—いロマン
 チックな情の要素を併せて、粗っぽの道義的
 な要素を持ち込^いが點に在る。若し今日
 の歌舞伎界や市村の舞臺に其國の如く西や
 東の草双紙に見るやうな^{もの}—^を

舞臺

女復の二と

女復の二と

(下)

柿山正雄

白く^きき^らて^る舞臺劇^の中^にて^は萬草の芝居を觀た。
 私は第三助の久末三助が色気の中の服をきら
 せこのものを始気^に—ながら、^下鈴木徳子とらお
 女復のする—^と梅^のお梅に^布—^一章—
 に見^てゐた。さすか^にま^る人の娘^がある。^舞舞
 女復者の^舞舞と^は移^らな^いもの^なら^う、^舞舞
 舞臺の女^がか^らでも^もあ^らま^し舞臺の^女が^ら